

鳥取・米子城跡

よなごじょう

1 所在地 一 鳥取県米子市西町、二 同内町

2 調査期間 一 一九九八年（平10）八月～十二月、二 一九九九年六月～九月

3 発掘機関 （財）米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室

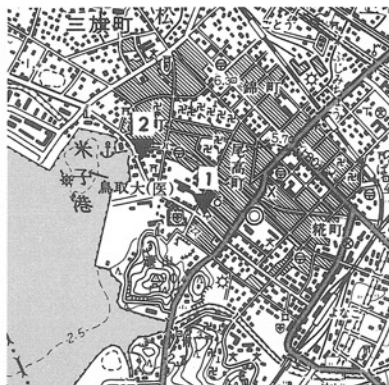
4 調査担当者 高橋浩樹・佐伯純也

5 遺跡の種類 城下町跡

6 遺跡の年代 弥生時代～近代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

米子城跡は、市街地の北西部に位置する湊山を中心に形成された、



（米子）

中世から近世にかけての城郭遺跡である。これまでに、本丸を含む城郭中心部分のほか、武家屋敷地の調査が行なわれている。

一 第二五次調査

この調査は裁判所の改築工事に伴うもので、調査地は近世の武家屋敷地にあた

る場所である。

木簡は、一八世紀後半から一九世紀前半にかけてのものと思われる井戸から一点、これと同じ時期のものと思われる水路から一点、計二点が出土した。

井戸は直径二m程度の素掘りで、平面は円形を呈する。水路は検出長さ八m幅一・三m深さ二〇cm程度のもので、屋敷境界を示す溝と考えられる。

二 第二九次調査

この調査は、近世の米子港に程近い町人町において実施されたものである。調査の結果、明治時代前期に作られた堤防状の遺構を検出し、それを埋立てて作られた水田土から木簡一点が出土した。

8 木簡の釈文・内容

一 第二五次調査

井戸

(1) ・「なめ」

・「□」

113×53×10 011

水路

(2) ・「戸田様 木村」

・「大□壺本」

205×30×6 011

(1)は針葉樹の材を用い、四隅を削り面取りしている。(2)も針葉樹で、長方形の材であるが下端部を削り出して幅をやや狭くしている。

二 第二九次調査

(1) ・「。ゑび屋喜太夫。」

・「。吉久」

149×50×10 011

針葉樹を用いている。上下両端の角を丸く加工し、上下とも端から約二・五cmの部分に、径一mm程の孔があけられている。表面の「ゑび屋喜太夫」は、幕末から明治時代にかけて米子市内町に居住していた有力商人である。裏面の「吉久」は不詳。

9 関係文献

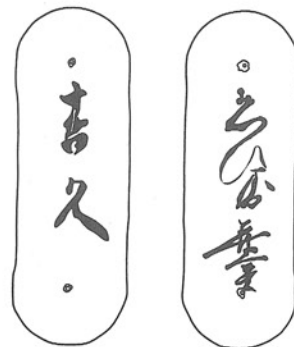
(財)米子市教育文化事業団『米子城跡二五次調査』(一九九九年)

同『米子城跡二九次調査』(二〇〇〇年)

(佐伯純也)



一(1)



二(1)



一(2)